

発 建 第 6 7 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

岐阜県美濃加茂市長 渡辺 直由



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のありました見出しのことについて、別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岐阜県美濃加茂市

道路特定財源等に関する基本方針には、道路特定財源が一般財源化されても、地方財源に影響を及ぼさないように措置することを明記されている。

しかしながら、道路整備の優先順位を単に自動車等の交通量で測ることになると、都市部の整備が優先される結果となる。道路が「まち」と「街」をつなぐネットワークの役割を持ち、地域住民の暮らしに自動車は欠かせない交通手段であり、その道路整備はもつとも身近な社会資本だと考える。公共交通機関の未整備な地方にとって、必要な道路は、交通量の多少を問わず市民生活を守るべく道路整備が必要であり、かつ、そうした道路整備が遅れている現状を踏まえ、今までの道路財源は確保すべきである。

②-1 地域の現状と抱える課題

岐阜県美濃加茂市

○現状

道路整備については、美濃加茂市第4次総合計画（2000～2009）において「市民生活の交流を促進するコミュニティ道路の形成と整備につとめるとともに、市域の骨格となる高規格道路や南北・東西の幹線道路の整備を推進する」ことを明記している。

現在は、国道のバイパスを始めとする幹線道路の整備や、日常生活に直結し市民間の交流を促進する生活道路など、市内の道路ネットワーク化を図るべく整備を行なっている。

○課題

当市は東海環状自動車道をはじめ、国道4路線、主要地方道4路線を有し、この地域の交通の要衝となっている。これらの路線を含めた骨格道路及び都市計画街路の整備が必要。特に、国道41号バイパスや248号バイパスの渋滞への対策は急務である。また、生活道路については、買い物や通勤通学などの日常生活面や、緊急車両の通行や災害時の危機回避のための質的整備を図ることが必要であり、また、その財源確保。

②-2 地域の目指すべき将来像

岐阜県美濃加茂市

東海環状自動車道の全線開通によるネットワーク化及び土岐 JCT・美濃関 JCT間の 4 車線化によって、中部圏の高速道路の渋滞緩和や、企業誘致をはじめとする経済活動がより活発になる。本市の南北を縦断する国道 41 号の名濃バイパスや美濃加茂バイパスは、地域高規格道路の計画路線へ格上げし、自動車専用道路としての「名濃道路」が整備されることになり、世界へと広がる。また、本市の東西を横断する国道 248 号バイパス（関市以西）、国道 21 号坂祝バイパスの全線供用開始によって、本市を中心とした周辺地域は企業誘致、雇用の促進など、経済や地域社会にもたらす効果は多大なものがある。また当市は、JR では高山本線や太多線があり、国道が集中した交通の要所などから地域間交流に大きな役目を果たしており、人口減少社会においても人口増が見られるなど、地域の活力を生かし持続的発展を目指す。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

岐阜県美濃加茂市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・東海環状自動車道土岐 JCT ～美濃関 JCT間の 4 車線 化	・名古屋圏や近畿圏、北陸、甲信 越地方への物資流通が活発にな ることから、企業誘致に弾みが つく。また、事故等による交通 遮断の回避ができる。	
・都市交通の快適 性、利便性の向 上	・東海環状自動車道西回り（西 関 IC～四日市北 JCT間） の開通	・東名高速道路や名神高速道路で 慢性的に発生している渋滞の解 消や道路のネットワーク化によ る時間短縮が図れる。	
	・国道 21 号坂祝バイパス及び 国道 248 号バイパス（関市 以西）の開通	・当市から岐阜市方面への流通の 充実、渋滞の緩和。沿線の環境 改善、安全で安心な道路網の確 保や中濃地域の幹線道路ネット ワークの形成。	
	・国道 41 号名濃バイパスの 路線拡充及び美濃加茂バ イパスの開通	・当市および周辺地域から中部 圏・中部国際空港や名古屋港と のアクセスが容易になり、流通 の充実、渋滞の緩和が期待され る。また、飛騨方面から美濃加 茂 IC への接続により、地域間 交流が期待される。	